地域づくり講演会ニュース

平成28年
11月発行

★平成 28 年度　地域づくり講演会を開催しました（平成28年 10 月 21日）

福島県内の地域づくりや災害復興に長く携わっておられた講師から、福島県や熊本県における震災復興に係る知見や事例の紹介、社会活動経験に基づいた地域づくりへの助言などについてお話をいただきました。

テーマ：「震災復興と地域づくり」

【経歴】

◆大学で地理学を学ばれ、主に醤油の研究をなされていた。
◆現在は、熊本学園大学で地理学の教鞭をとられている。
◆福島大学勤務時代に東日本大震災からの復興地域づくりに取り組んでこられた経験を活かし、現在勤務されている熊本学園大学で「被災地域の大学として何ができるのか」という視点から、同大学の学生と共に復興への助言や被災者への支援を行っている。

【現在の取組】

◆益城町保健福祉センター避難所で、無料で被災者同士が集うことのできる場「おひさまカフェ」の運営を学生と行っている。
◆避難所内のグループ毎にも「地域づくり」に対して温度差があり、地区のリーダーが中心となって住民自治に取り組んでいる地区も見られるが、避難所全体への拡大に至るには時間がかかる状況。
◆福島の経験で、狭い集落の中でのコミュニティしかなかったものが、仮設住宅等での生活を通じて広がり、その広がった状態で元のまちに戻れれば、今まで地区ごとのコミュニティだったものが、より広範囲に広がるという事実を教えてもらった。熊本で、この考えをもっと広め、復旧・復興時の「地域づくり」へ応用していきたい。

【災害と地域づくり】－長野県白馬村の「近助」による災害対応－

◆大災害にも係わらず、地震で死者が一人もでなかったことで「白馬の軌跡」と全国的に有名となった白馬村では、区長が支援マップを作り、誰が誰を支援するか決めて常日頃から状況を把握していた。発災時、住民自らが行動することに役立ち、初期対応が早く進んだことが死者を出さなかった大きな要因であった。
◆「自助・共助・公助」の他に、向こう三軒両隣で助けあう「近助」の取組が大事さを示す教訓である。

【これからの展望】

◆「復興」の進み具合が地域により差がある大きな要因として、被災までの従来の地域づくり活動等の輪の有無が、何か起こった時に後に引いていることが考えられる。
◆常日頃、自分たちが良い地域にしようとする「地域づくり」の取組が、災害対応等などの復興に備える一つの策「事前復興」となる。

＜髙木　亨氏　プロフィール＞
◆立正大学文学部地理学科卒、同大学院文学研究科で修士・博士（地理学）の学位を取得。（専門分野：人文地理学、災害復興、まちづくり、産業地域研究。）
◆２０１２年福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授赴任。
◆南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議の委員長、川内むらづくり協議会委員、鮫川村クラインガルテンアドバイザー等、福島県内の地域づくりに深く貢献するとともに、東日本大震災からの復興に関するフォーラムや委員会、講師等を経て、震災復興にも多大な功績を残す。

【このニュースに関するお問い合わせはこちらへお願いします】
福島県県南建設事務所　企画管理部　企画調査課（TEL：0248-23-1617）